

令和7年度事業報告について

(公社) 雲南市シルバー人材センター

1 事業活動の概要

令和7年度における我が国の経済については、物価上昇が落ち着く中、個人消費等の内需が増加していくものと見込まれました。

長きにわたったコストカット型経済から脱却し、デフレに後戻りせず「賃上げと投資が牽引する成長型経済」に移行できるかどうかの分岐点にあるとされています。

そうした中、賃金上昇が物価上昇を安定的に上回る経済を実現し、「賃上げと投資が牽引する成長型経済」への移行を図っていくため、日本経済・地方経済の成長、物価高の克服及び国民の安心・安全の確保などを柱とする「国民の安心・安全と持続的な成長に向けた総合経済対策」が策定され、その効果を広く波及させていくとされています。

令和7年度の経済財政運営においては、全ての世代の現在及び将来にわたる賃金・所得の増加を最重要課題とし、賃金上昇が物価上昇を安定的に上回る経済の実現を確実なものとしていくとされました。

このような状況において、令和7年度については、物価上昇が落ち着く中、個人消費等の内需が増加し、GDP成長率は実質で1.2%程度、名目で2.7%程度が見込まれ、緩やかな回復が続く見通しで人出不足の強まりを受けて企業は労働者確保に向け、定年の延長や賃上げの動きを強めており、実質賃金は前年度比プラスでの推移が定着していく見通しとしています。

今後、シルバー事業を推進していくためには、背景となる経済状況が良好である必要がありますが、人口減少に伴う労働力不足が大きな課題であり2035年、日本の労働市場では労働力不足は2023年の1.85倍になると予想されており、現在でも労働力不足に起因する企業の営業時間・営業日数の短縮、サービス提供体制の縮小といった影響が出ていると報じられています。

また、コロナ禍を機に従来の働き方を見直し、担当職務を明確にした上で採用を行うジョブ型雇用（適応能力がある人だけを雇用する少数精鋭主義）に移ってきています。

企業へのシルバーの派遣事業も前述した事由もあってか、合理化が図られ派遣切りも起こり一時求人が減りました。

この状況を払拭すべく、担当職員による市内・近傍の企業・事業所への積極的

な訪問、PR チラシの配布、また年末年始には理事の皆さんに、あいさつ等、企業訪問を行っていただいた結果、受注件数は上がりました。

2030、2035 年の「人手」と「働く時間」の調査では就業者が増えるにも関わらず労働力不足が深刻化する背景には「労働力は『人手』から『時間』で捉える時代へ」と言われ、①就業者全体の中で、短時間で働く傾向にあるシニアや女性、外国人などの占める割合が大きくなること。また、②働き方改革の影響により、就業者全体の働く時間が短くなることで、就業者の数が増えていくものの、労働需要に追いつかず、労働力不足は深刻化していくものとしています。

会員数の持続的な拡大に向け、特に女性会員数の拡大や、企業退職（予定）者層への働きかけ強化の取り組みを引き続き行い、80歳を超えても活躍できる就業機会の創出に努めました。

当センターの事業実績は、下記に記述しますとおり一時的に会員数及び契約金額とも平成27年度には下げ止まりとなり、令和元年度以降、会員及び役職員の努力はもとより、地域の皆様、行政をはじめとする関係機関のご支援により計画目標の伸び率に乘りましたが、インボイス制度が導入され受託事業から派遣事業に一部切り替えて事業推進をしました。

また、安全就業については、安全第一の就業を目指していましたが、残念ながら4件の事故が発生しました。

地区担当者と無事故就業対策について協議し、再発防止の徹底を図りました。特に令和4年度から始めた刈払機作業の『ライセンス』更新の会員さんもあり再度講習会を開催し、該当する会員全員の皆さんの安全就業の徹底を図りました。

通常は除草・草刈り・剪定作業において、会員自ら『就業前の安全点検表による点検・点呼・確認』の安全自主点検を行い、安全意識をもって就業し、傷害事故を無くすことを主眼に取り組んでいます。

インボイス制度の導入に伴う当センターの対応は、令和6年度に引き続き、事務費率を15%とし、的確な就業会員配置による仕事完成度の向上、依頼から契約・着工までの期日短縮、アフターサービスの充実など発注者に満足いただけるような付加価値を付けたシルバー事業としました。

今後、先述したように国内外の社会経済情勢は全く予断を許しませんが、高齢化社会の受け皿となるシルバー事業を今後ますます発展させていくためには、公益社団法人として市民の目線に立ち、多様化する社会的要請や企業要請などの社

会経済環境の変化に的確に対応していくことが重要となります。

今後とも、安全就業を第一とし、派遣事業の積極的な取り組みなど国の施策の動向を注視し、県連合会及び近隣のシルバー人材センターとの情報を密にしながら就業機会の拡大を目指し、お客様に「安心と信頼」される魅力あふれるシルバー人材センターを構築していく必要があります。

以下、令和7年度において実施した事業の概要を報告します。

2 事業実績（10年の軌跡）

（数値は、請負・委任と一般労働者派遣事業を合計した数値）

年度	会員数 (人)	粗入 会率 (%)	就業延 人員 (人)	就業率 (%)	受託 件数 (件)	契 約 金 額 (千円)			
						計	公共 関係	企業 関係	一般 家庭
28	373	2.1	24,913	89.2	4,259	139,737	30,476	57,273	51,988
29	391	2.2	26,656	91.6	4,420	147,194	29,412	66,243	51,538
30	414	2.4	29,580	90.6	4,627	170,190	42,677	76,940	50,573
元	428	2.5	33,458	87.1	4,620	198,225	47,240	98,806	52,209
2	436	2.5	32,523	83.7	4,544	194,807	58,694	85,910	50,203
3	454	2.6	35,805	88.1	4,601	205,085	60,635	95,042	50,616
4	466	2.7	37,638	89.4	4,759	226,758	64,083	107,067	55,608
5	458	2.8	36,072	93.0	4,788	221,909	66,824	98,397	56,680
6	460	2.8	34,943	90.6	4,627	221,737	69,649	90,939	61,149
7	437	2.7	33,385	91.8	4,368	222,881	78,820	92,718	51,343
前年度比較	95.0%	-0.1	95.5%	+1.2	94.4%	100.5%	113.2%	102.0%	84.0%

3 実施報告

（1）安全・適正就業について

1）事故発生状況

安全・適正就業実施計画に基づき、安全な就業は全てに優先し、労働関係諸法規の法令を遵守し、安全・適正な就業に努めましたが、傷害事故が2件、賠償事

故が2件発生しました。

いずれの事故も草刈り作業時の事故であり、傷害事故においては、石段を踏み外し、左足首のアキレス腱が断裂、もう1件は蔦が巻きついた笹竹を1人が持ち、もう1人が切っていた際、笹竹を持っていた人に刈払機の刈刃があたり、右手小指・薬指を切創したものの。

また、賠償事故においては、駐車中の車に飛び石があたり、運転席右側サイドミラー付近の窓ガラスが壊れた。もう1件はエアコン室外機のガス管を誤って切断しガス管の一部が切れ、ガスが抜けたというものでした。

2) 安全衛生委員会

令和元年度からシルバー派遣事業における安全衛生管理について基本的な事項を定め、シルバー派遣会員の安全と健康を保持するとともに、災害及び事故を未然に防止することを目的とする安全衛生委員会を設置して、1回／月の安全衛生委員会を開催し協議を行いました。

引き続き、産業医の先生のご指導の下、新型コロナウイルス感染症、またインフルエンザ、熱中症等の予防対策の情報提供を会員の皆さんに行っていきます。

3) 安全指導推進員

- ① 安全指導推進員による安全パトロールの強化（27回）
- ② 班会で安全就業及び当シルバー人材センター内に於ける事故内容の報告、意見交換実施
- ③ 公平な就業機会の推進（ローテーションの推進）
- ④ 事務局だより（2回発行）による安全就業の奨励
- ⑤ 安全・業務委員会による現場パトロールの実施（1回）
- ⑥ 安全衛生委員会の開催、職場の安全衛生巡視、産業医による健康対策

（2）会員の増強について

会員の拡大は、当センターの最重要施策として取り組み、多様な発注ニーズに対応するため、下記の運動を積極的に取り組み会員の確保に努めています。

新規会員は45名、また病気や家庭事情での退会者が68名あり、今年度末の会員数は前年の460名に対し437名と23名の減となった。

(取 組)

- ① 入会説明会を月 2 回開催（説明会参加 47 名）
- ② 一会員一人勧誘のロコミ運動
- ③ 後期高齢者等及び加入時期に配慮した会費制の導入
- ④ 市内各交流センターへ事務局だよりの配布

(3) 就業機会の拡大について

就業拡大は、会員拡大と併せて当センターの最重要施策として取り組んでいます。

会員及び役職員は「みんなで開拓、みんなで就業」を基本とし、引き続きあらゆる機会をとらえて就業開拓に積極的に取り組みます。

(取 組)

- ① 就業開拓推進員（兼務地域連絡員）を 6 地域に 7 名配置
- ② 役職員等による年末年始の企業訪問（54 社）実施
- ③ 請負事業から派遣事業へ 積極的な切替え（専属職員を配置）
(受注件数 141 件 就業延べ人数 12,725 人日)
- ④ シニア就業相談会の開催（6/20 木次）
- ⑤ 指定管理者制度（創生館、及び野球場）の継続受託
- ⑥ 児童クラブの運營業務（ローテーション就業）

児童見守り業務（斐伊児童クラブ、させ児童クラブ）

クラブ利用者 斐伊：47 名 させ：22 名

開所日（年間） 斐伊：270 日 させ：260 日

職員 斐伊：支援員 8 名、補助員 6 名 計 14 名

させ：支援員 5 名、補助員 9 名 計 14 名

- ⑦ 行政機関等に対し令和 8 年度の予算要望、委託事業の確保の要望活動

（令和 8 年 1 月 8 日 石飛雲南市長、糸原健康福祉部長に、また、同日 松林・原 正副議会議長への予算要望と意見交換を行いました。）

(4) 普及啓発の推進について

広く雲南市民に対し、シルバー事業の理念、意義、事業活動状況を地元テレビや新聞、一般研修、ボランティア活動を通し、会員拡大や就業拡大の普及啓発に努めました。

(取 組)

- ① 市内 12 か所で 193 名の会員が参加しボランティア作業を実施
- ② 毎月ケーブルテレビ等地域の媒体を活用した普及啓発を実施
- ③ ホームページ及び自治体の広報誌、新聞を活用した普及啓発を実施
- ④ 会員を対象とした講習会を開催

・剪定講習会（座学、実技）

令和 7 年 11 月 26 日 参加者 会員 8 名

於：大東地域交流センター/公園

・刈払機取扱安全講習会（座学）

令和 7 年 12 月 16 日 参加者 会員 14 名（新規就労者）

於：シルバー人材センター

・刈払機作業就労資格取得安全講習会

令和 7 年度 4 回開催 於：シルバー人材センター

対象者：草刈作業従事者、新人の方、草の寄せ方のみの方、車両の監視のみの方、草の運搬のみの方

R7.4.24 会員 2 名 R7.5.7 会員 5 名

R7.6.4 会員 3 名 R7.6.26 会員 1 名

・刈払機作業就労資格更新講習会

令和 7 年度 7 回開催（対象者：148 名）

対象者：草刈作業従事者 有効日が令和 8 年 3 月 31 日までの方

R8.2.3 大東地区 参加者 26 名 於：大東交流センター

R8.2.6 加茂地区 参加者 15 名 於：かもてらす

R8.2.10 木次地区 参加者 26 名 於：斐伊交流センター

R8.2.13 三刀屋地区 参加者 26 名 於：一宮交流センター

R8.2.17 吉田・掛合地区 参加者 19 名 於：シルバー人材センター

R8.2.20 全地区 参加者 12 名 於：シルバー人材センター

R8.3.16 全地区 参加者 12 名 於：シルバー人材センター

- ⑤ 一般市民を対象としたスマートフォン講習会を開催 4 回開催

於：シルバー人材センター

R7.7.23 参加者 14 名 R7.9.24 参加者 14 名

R8.2.12 参加者 12 名 R8.3.17 参加者 13 名

- ⑥ 「利用者アンケート」調査を実施（90%以上の方が総合的に満足と回答）

(5) 財政運営の健全化について

令和6年度に策定された財政健全化指針に基づき財政基盤の強化を図っています。

令和7年度も引き続き指針を踏まえ、効率的な財政運営に努め、積極的に就業拡大を図る一方、市当局に対し財政支援及び委託事業の拡大を要請するなど財政基盤の安定化に努めました。

(取 組)

① 派遣事業（新規10事業所）の積極的な取り組み

（参考：新規事業所）

雲南都市開発(株)、(株)ウシオ、(一財)宍道湖西岸森と自然財団、(株)都間土建、(株)キラキラ雲南、ホシザキ(株)、(有)だんだんファーム掛合、中野機工(株)、(有)湯乃上館、(合同)Re

② 雲南市長及び市議会議長へ補助金の確保、及び委託事業の拡大に対する支援の要望と意見交換の実施

③ 効率的な財政運営

(6) 組織の充実について

センターは情報発信基地であり、情報の共有化を図るため、各種会議を開催し、当面の課題とするフリーランス新法施行、新しい契約（包括契約）に伴う講習会・会議・各種研修会を行いました。

(取 組)

① 理事会（7回）及び専門委員会（各1回）の開催

② 安全衛生委員会開催（1回／月 職場の安全巡視）

③ 各地区班会（12か所）の開催

④ 事務局長会議及び安全就業・会計事務研修会等リモートでの参加